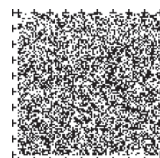


自立支援局だより

第38号 2018. 12発行

第39回 リハ並木祭

10月19日（金）と20日（土）、澄み渡った秋晴れの空の下、第39回リハ並木祭が行われました。19日の午後から開会式と内覧会が行われ、翌20日は、グルメストリートに沢山並んだ模擬店、訓練室や講堂を使用した企画等で大いに賑わいました。その中から、各方面で活躍し、リハ並木祭を盛り上げてくれた利用者の方々等の感想を紹介します。



就労移行支援 安田 茂也さん

作業系では紙相撲を担当し、事務系ではゲームや景品を渡す役目としてリハ並木祭に参加しました。当日は人が来るか不安でしたが、子どもたちが沢山来てくれました。一緒に来た大人も、子どもに負けじと楽しんでくれていました。元々高齢者施設で働いた経験があり、そこでは月1回レクリエーションをしていた経験があります。また、販売をしていた経験もあるので、お客さんへの対応はいつもどおりできたのではないかと思います。



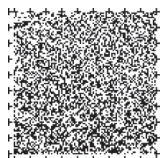
リハ並木祭では、訓練室の仲間がとてもまとまっていた。私も祭りを盛り上げようと思い、昔着ていた法被を持ってきて、友人と揃いで着ました。前回のリハ並木祭は利用開始直後だったので、何をしたらよいか分からないうちに終わってしまいましたが、今年は2回目なので楽しむことができました。来年はOBとして参加したいと思っています。

就労移行支援 植木 曹太さん



自分の担当している班のリーダーを務めましたが、いろいろな発見がありました。就労移行支援では様々な障害をもった人が集まっているので、それぞれができること、できないことをみてうまく役割分担をする必要がありました。普段の訓練は個別で行っているため、そういった関わりがありません。その人がどういう人なのか分からなかったし、僕のことでも分からなかったと思います。リハ並木祭をきっかけに話すタイミング、お互いのことを知るきっかけになりました。

当日は、思っていた以上にお客さんが入ってくれました。子どもたちが楽しくやってくれたこと、また、多くの人に自分のしたことを喜んでもらえたことが嬉しかったです。子どもから年配の方、車いすの方など、幅広い層の方たちに参加してもらえてよかったと思います。去年はリハ病院に入院中で、少し見に来ただけでしたが、外から見ているより参加した方が面白かったです。

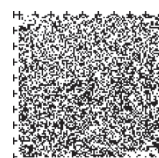


自立訓練（視覚機能訓練）



窪野 孝貴さん

想像以上に活気のある文化祭（リハ並木祭）となり大変驚きました。グルメストリートは通行するのも大変なほどで、私が担当した「占いの館」も大変好評で、活気がありました。自分は事前準備ではポスターの作成や占い内容の加筆・校正作業、当日は占い師として接客をしました。大変だったことは「しばらくは停滞気味です」という結果がでたとき「今年一年は大きな買い物を控えましょう、来年に持ち込みすることで金運は良くなります」等と占い結果を踏まえフォローすることが大変でしたが、占い結果をより信頼させるものへと昇華できたようで良かったと思います。占い師役は3人で行いましたが自分ひとりで60人程占ったと思います。久しぶりに童心に帰って楽しむことが出来ました。



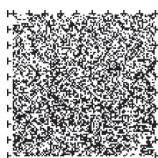
自立訓練（生活訓練） T・Mさん

前の日はとても寒く、「明日は大丈夫かなあ」と思いましたが、とても多くのお客様にきていただき、大変盛り上がりました。並木祭では、フランクフルトの販売をしました。

僕の役割はやき上がったフランクフルトをお客様にわたすことです。最初はきんちょうしたけれど、だんだんなれてきて良かったです。

13時すぎにフランクフルトも完売してくれて、完売記念ギターライブをしました。僕はタンバリンをたたきました。タンバリンもやったことがほとんどなく、とてもきんちょうしましたが、本番はうまくできてくれて良かったです。見に来てくれた家族もとてもよろこんでくれて良かったです。

来年はまだいるかどうか分かりませんが、もしいたとしたらまたいろいろなことにちょうせんしたいと思います。

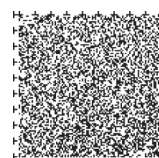


今年度は、天候に恵まれ、「自分で創る輝く未来」というテーマのもとに、多くの来場者にお越しいただきました。5月下旬に国リハと職リハの職員と利用者からなる「リハ並木祭実行委員会」が組織され、日々準備を行ってきました。その上に、地域の方々からお力添えをいただき、50を超える様々な企画が寄せられ、とても賑やかな催しとなりました。

グルメストリートには、多彩な模擬店が並び、昼過ぎに完売するお店もあるほど、大盛況でした。また、訓練棟では日々の訓練を紹介する展示ブースや、あんま体験コーナーの他、利用者お手製のスイーツを販売しているお店もあり、大人から子どもまで楽しむことができました。そして、体育館では、車椅子バスケットボール・ウィルチェアラグビーの試合や体験会が行われ、さらに、パラリンピックでも話題になったゴールボール体験ができました。最後に、講堂では、常連で参加してくださる東京サロンオーケストラの演奏でリハ並木祭を華やかに飾っていただきました。

そして、会場のあちらこちらで国リハと職リハの終了者が、職員や友人との再会を懐かしむ場面や、現役の利用者が地域の方々との触れ合いに昂揚する場面が見受けられ、和やかな第39回リハ並木祭となりました。

今後とも、末永くこのような催しが続きますように、また、行事を通じて本センターの利用者が広く地域と繋がり、自分で輝く「未来」を創ることができますように、皆様のご支援とご協力を宜しくお願いします。



「身体障害者リハビリテーション研究集会 2018」実施報告

去る11月15日（木）・16日（金）に当センター学院講堂で、「身体障害者リハビリテーション研究集会 2018」を開催いたしました。当研究集会は、全国の障害者支援施設や身体障害者更生相談所等に勤務する職員等が、障害者の支援に関する諸問題、地域におけるリハビリテーションのあり方などについて研究発表を行い、障害者の支援やリハビリテーションの向上を目指すことを目的に毎年開催されているものです。今年度は「自立訓練のさらなる充実を目指して」～地域包括ケアシステムにおける障害者リハビリテーション～をテーマに、約110名の方にご参加をいただきました。



開会挨拶

1日目は、森自立支援局長による基調講演から始まり、かがわ総合リハビリテーション成人支援施設の小島施設長から更生施設長会紹介が行われました。

続いて、厚生労働省障害保健福祉部障害福祉課の秋山専門官による行政説明、そして、シンポジウム、ポスタープレビュー及び施設見学が行われました。特にシンポジウムでは、当センターをかつて利用されていた当事者の方から、「こころのリハビリテーション」の大切さについて体験談を交えてお話いただき、貴重な時間となりました。

2日目は、ポスターセッションと題して、本研究集会のテーマに沿った各施設の様々な取組等が発表されました。続いて、事例発表が行われ、2日間に渡る研究集会は閉会となりました。

当日は、生活支援員、介護福祉士、相談支援専門職のほかPT、OT、MSW等々障害者支援に携わる多くの方々にご参加いただきました。

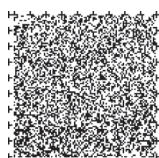
また、会場内やアンケートを通して伺った参加者の皆様の声を今後の研究集会に活かしていきたいと思います。



シンポジウム



ポスターセッション



あん摩・マッサージ・指圧臨床実習

理療教育・就労支援部 理療教育課

あん摩・マッサージ・指圧臨床実習は、2年次までに学んだ手技療法を実際の患者さんに対し施術を行なう実技科目として、3年次に行っています。担当教官の指示の下、ただ施術するだけではなく、問診や身体診察により患者さんの状態を把握し、施術をしてもよい疾患なのかを判断することで、安全面に配慮した施術を行っています。また、診療録の記入、ベッドの準備や後片付けといった、医療従事者として必要な知識、技術、態度を実践的に習得できるように指導しています。

特に、当センター利用者は、視覚に障害があることから、晴眼者に比べるとスムーズに行うことは難しいですが、それらを補うための触察技術や患者さんの声の調子など、様々な感覚を用いて、患者さんが満足できるよう

な施術を目指しています。また、挨拶や声掛け、身だしなみなど接遇に関しても力を入れています。

実習は平日の午前10時または午後1時30分の2回で、電話予約制となっています。実施日は年によって異なりますが、今年度は、月曜の午後、木曜の午前、金曜の午前の3日間です。施術時間は60分から70分程度で全身を施術します。利用者は卒業までに、約30名程度の患者さんを施術し、日々よい施術者を目指して真剣に取り組んでいます。

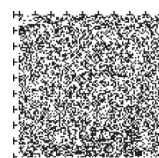
ここで、臨床実習を受けた患者さんの声を一部紹介します。

「いつも一生懸命にやっていただき、感謝しています」、「腰が痛いのがとても楽になりました」、「とても気持ちよく、いつの間にか寝てしまいました」など、多くの方からご好評をいただいております。予約を取ることが難しい時もありますが、一度受けてみたい、興味があるなど、ご利用をお考えの方は、臨床室受付までお問い合わせください。お待ち申し上げます。

高橋忠庸



(臨床室 04-2995-3112)



利用者募集のご案内

当センターでは、下記のサービスの利用を希望する方を随時募集しています。
利用を希望される方は、総合相談課までお問い合わせください。

自立訓練（機能訓練）

主に視覚に障害のある方や頸髄損傷等による重度の肢体不自由の方が、地域や家庭、職場などで持てる力を最大限に生かし、より充実した社会生活を送れるよう支援します。

○視覚に障害のある方：白杖使用による歩行訓練、日常生活訓練、コミュニケーション訓練など

○頸髄損傷等による重度の肢体不自由の方：理学療法、作業療法、スポーツ訓練、職能訓練など

自立訓練（生活訓練）

主に高次脳機能障害のある方が、日常生活や社会生活に必要な手段を理解し、生活能力を高められるよう、個々の生活状況に応じて支援します。

○スケジュール管理、生活管理能力の向上、社会生活技能の向上、作業力の向上など

就労移行支援

就労が見込まれる主に身体に障害がある方に、企業への就職、また、復職に向けて、各種訓練や職場実習により、働くための力を付けることや就職活動を支援します。

○職場体験訓練、技能習得訓練、職場実習、就職活動支援など

就労移行支援（養成施設）

視覚に障害のある方が、国家資格であるあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の受験資格を得るための職業教育を行い、これを活用し、就労することを支援します。

○授業（講義、実技実習、臨床実習など）や就労マッチング支援など

※通所で上記サービスを利用することが困難な方には、施設入所支援（宿舎）を提供しておりますので、あわせてご相談ください。

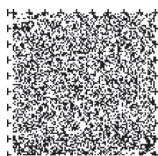
<問い合わせ先> 国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局 総合相談課
〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1

TEL：04-2995-3100（代表） FAX：04-2992-4525（直通）

E-mail：rehab-soudan@mhlw.go.jp URL：http://www.rehab.go.jp/

※利用相談は平日（月～金 8:30～17:15）受け付けています。

※施設利用申込書（様式）は当センターホームページからダウンロードできます。



※平成30年8月13日からE-mailアドレスが変わりました。ご注意ください。